

2030まで／以降の小水力の課題と 求められるシナリオ作成

小水力発電関係者への提言

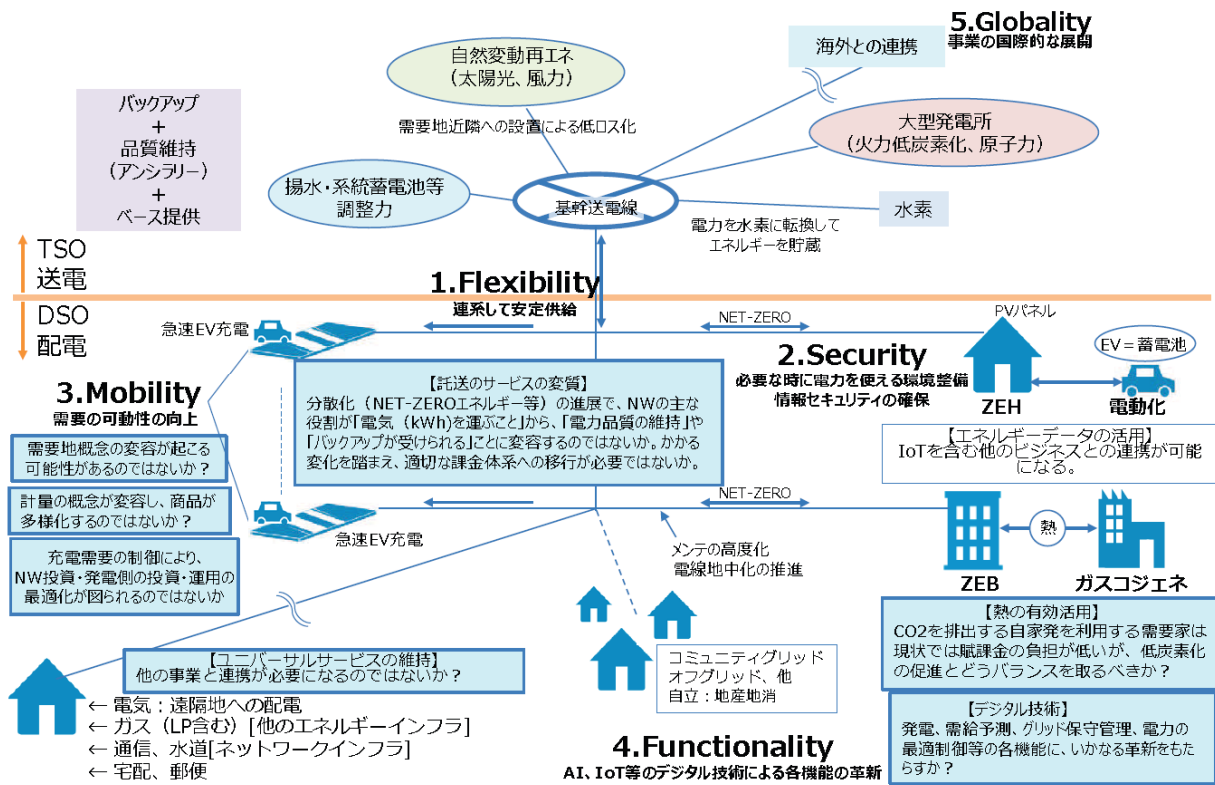
すべきことははっきりしている

⇒ 相手にしてもらえらるうちに、意味のあるシナリオを示せ

◇ 「Beyond」の意味を愚考した

◇ 過去の延長としての「計画」

◇ 未来に向け、関係者が共有する「シナリオ」



当政策シンポジウムの趣旨

再エネ発電の普及に対して、系統制約が大きな課題となっています。これは部分的な技術解で対応する課題ではなく、電力システムのあり方自体が問われていると私たちは認識しており、世間的にもそのような認識が少しずつ広がっています。とくに小水力発電に関しては、水資源が地域社会と強く結びついていること、比較的人口の希薄な山間地に資源が多いこと、自然変動が比較的小さいことなどから、自立性を持ったローカルシステムの基幹的な電源と位置づけることが可能と考えます。

本シンポジウムでは、日本の電力システム全体のあり方を意識しつつ、自立性を持った小水力発電の開発とローカルシステムのあり方について考え、今後の議論に向けた問題提起を行いたいと思います。